

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（中央区）

東 千 葉	担当圏域 地区概況及び 地区課題	圏域は住宅密集地に位置し、「戸建てが多い地域」と「戸建てと集合住宅が混在する地域」に分かれる。特に集合住宅に住む高齢者の中には、地域社会との接点を持たず孤立化している方も多い。一人暮らしで身寄りが無く入院先で逝去しており、数か月後に判明したケースもあった。地域との関係性が希薄で、総合相談の際には状態が悪化しているといった問題が顕在化してきている。	
	活動方針 (総合)	・コロナ禍による地域活動の縮小や高齢者の閉じこもりといった課題に対して、関係機関との協働や感染対策、ICTの活用などにより、地域活動が継続できるように支援する。 ・地域活動の継続や民生委員との関係を強化することで、身近な相談機関であることを周知していく。引き続き、積極的に地域に出向き、周知活動や地域活動をしていくことで、孤立している高齢者にも早い段階から介入して支援に繋げていく。	
	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	【道場北1丁目、2丁目】 道場北地域では、一人暮らし高齢者が多く生活している。日ごろの近隣関係で日常生活の困りごとがあった場合に、相談する人がいないという方も少なくない。あんしんケアセンターが相談を受けた時には、深刻な状態になっている場合もある。高齢者本人がどこに相談すれば良いか分からないなど、情報が行き届いていないことが問題となる。今後、周知活動の拡大や早期介入をどのように行っていくかが課題となる。
		重点活動	・あんしんケアセンターの周知活動（拡充） ・体操教室の再開、新規参加者の支援（拡充） ・地域課題検討に向けた地域ケア会議（新規） ・地域活性化に向けたイベント企画・開催（新規）
中 央	担当圏域 地区概況及び 地区課題	担当圏域は東西に約6km、南北に1km程度の広さであるが、人口が約45,000人と多く、人口密集地域である。官公庁や企業、商業地域も多いため、日中の圏域内人口はさらに多い。海側から圏域中央部にかけては新しいマンションが増え、若い世代の転入が続いている。一方で古くからの住宅街、50年ほど前に造成された住宅地は高齢化が進んでいる。圏域の高齢化率は約19%で千葉市全体に比べ7ポイント程低い。圏域内には6つの小学校区と4つの中学校区が重なり、狭い地域ではあるものの町丁によって地域特性が異なる。住民主体の活動は少ないものの、市場サービスは多い。 若い世代の多い千葉みなとエリアでは地域の繋がりが希薄で地域活動もほとんど行われていないため、支援が必要な高齢者を早期に発見することが難しい。新宿エリアでは地域活動の担い手が減少してきている。千葉中央エリアでは繁華街が多いためか、ホームレスや累犯高齢者、近隣トラブル等、あんしんケアセンターだけでは解決できないケースの相談がある。都エリアでは50年ほど前に造成された住宅街に転入してきた方々の高齢化が進み、家屋や地形の問題で家事支援を必要とする人が増えてきた。関係機関と連携し、地域特性に応じた支援を展開していく必要がある。	
	活動方針 (総合)	・関係機関と連携し、支援が必要な高齢者を早期に発見し、支援が開始できるよう環境を整える。 ・地域ケア会議等を活用し、多様な問題を抱える世帯全体を対象に、支援を展開していく。 ・世情に応じた介護予防に取り組めるよう、地域活動支援・普及啓発活動を行っていく。	
	重点活動 対象地区	【都町】 ・都町からセンターまでは距離があり、気軽に立ち寄り相談がし難い。 ・潜在的相談対象者が多いと思われるが相談件数は伸びてこないという課題がある。 ・今後も相談・支援の増加が見込まれる。自治会等の地域の協力・連携が必要である。	
	重点活動	出張相談窓口の開設（新規）	

千葉寺	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>千葉市中央区郊外の東部地区エリアであり、中心部には県庁や県警本部、千葉市消防局などの主要な公的機関がある。また、千葉市立青葉病院、千葉大学医学部附属病院などの急性期の医療機関の他にも総合病院や精神科単科病院等、医療施設が集中している。教育機関として、県立高校が1校、中学校が3校、小学校が1校、公民館が2か所あり、地域住民の社会教育の推進の一端を担っている。福祉行政の拠点として千葉市ハーモニープラザ、その周辺には千葉県立青葉の森公園があり、散歩やウォーキング等住民の憩いの場として親しまれている。一方で、坂道や細い路地が多い地域であり、スーパーや商店等が大きな街道沿いに集中している為、足腰が弱ることで地域での生活を継続することが困難になる可能性がある。</p> <p>令和3年12月末時点での高齢化率は、22.8%であるが、25%を越えている地区も点在している。コロナ禍の影響により、フレイルのおそれがある高齢者の相談対応が増加している。また、8050問題を初めとする複合化・複雑化した課題に対する相談も増加している。</p> <p>各種サービス等の利用希望者は増えているが、社会資源に限りがあるため、地域での生活を継続するためには、介護保険サービス等が必要な状況に至らないような地域づくりが必要である。</p>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や関係機関と連携し、地域住民が自身の健康づくりや介護予防に積極的に取り組み、世代を問わずに『安心して年を重ねることができる地域』を目指す。</li> <li>・課題が複合化・複雑化する前に解決に至れるよう、各相談機関と連携を深め、高齢者だけでなく、高齢者を取り巻く周囲の人々が相談しやすいセンター運営を目指す。</li> </ul>
千葉寺	重点活動 対象地区 および課題	<p>【葛城地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により、地域活動が縮小することで、高齢者自身の閉じこもりや、それに伴うフレイルの進行が心配される。</li> <li>・高齢者のフレイル予防や孤立を防ぐための介護予防活動・居場所づくり等の再始動支援、支援を必要とする人の見守り等について対策が必要である。</li> </ul>
	活動目的	<p>高齢者自身が健康を意識したり、介護予防について自ら取り組むだけでなく、地域住民同士の繋がりを持てるような仕組みを地域の関係機関と構築する。</p>
	重点活動	<p>繋がりを支える地域支援（継続） ～住民主体の活動の再開支援を通して、高齢者の介護予防や孤立防止を目指す～</p>
松ヶ丘	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当圏域の高齢者人口は16,113人と市内で最も多い。</li> <li>・駅前などの生活に便利な地域と、バス以外に移動手段がない地域、またバス停までも遠くタクシーなどを利用しなければいけない地域が混在している。バス便が減便されたことにより外出が困難になった地域がある。</li> <li>・単身世帯や高齢者世帯も多く、様々な相談が寄せられているが、特に認知症や精神疾患が原因で生活に支障をきたしたり経済的困窮に陥るなど、複雑化した相談が寄せられることも多くなっている。</li> <li>・家族全体が多くの問題を抱え、高齢者だけでなく家族全体への支援が必要なケースもあり、支援の複雑性困難性を感じている。</li> <li>・地域活動では、一部が感染対策を講じ活動を再開させている。その活動に積極的に参加する方と、活動を控える方とで差が大きくなっており、気分の落ち込みや体力の低下がみられフレイルの進行が問題となってきた。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が高い地域、総合相談が多い地域など、集中的に支援が必要な地域を抽出し、地域ケア会議を開催する等支援体制の構築を図る。</li> <li>・積極的に地域に出向き、継続してあんしんケアセンターの周知を行っていく。</li> <li>・長引くコロナ禍の生活でフレイルの進行が心配される高齢者に、生活支援コーディネーターとも連携し、介護予防活動やセルフケアについての周知を行う。</li> </ul>
	重点活動 対象地区 および課題	<p>【仁戸名町（市営団地）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議では、「団地内の町会行事への参加率が低い」などの課題がある。住民への調査の結果、集まる場を求めている住民が多かった。一方で、実際には町会が行っている活動への参加は少ないのが現状である。</li> <li>・実態調査を踏まえ、独居や認知症、精神疾患、経済的課題等を抱えている高齢者への課題解決に取り組む必要がある。</li> </ul> <p>【大巖寺町、蘇我3丁目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周知活動を行っても、自分自身の問題として理解し行動していただけることが難しい方がいる。当事者以外の方から気軽に相談してもらえる関係性を作る必要がある。</li> <li>・大人数での会議等では、発言することをためらわれる方もいる。気軽に地域について話し合える会議の開催が望まれる。</li> </ul>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の情報共有・情報交換</li> <li>・介護予防、生きがい活動等の活動の場の創出</li> <li>・気軽に相談できる場の提供</li> <li>・対象地区ごとに地域ケア会議を開催し、地域の特性や、地域の抱える課題を知り、次の活動につなげていく。</li> <li>・民生委員などが相談を迷うくらいの段階の方を拾い上げ支援することで、問題が深刻化・複雑化することを予防する。</li> </ul>
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団地住民、地域の実情に合わせた集まりの場・機会の提供（新規）</li> <li>・地域課題検討に向けた地域ケア会議開催（継続）</li> <li>・民生・児童委員協議会定例会への参加（継続）</li> </ul>	

浜野	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>(地区概況) 区内他のあんしんケアセンターと比べ、高齢化率は一番高いが、高齢者人口は少なく、介護保険認定率も低いのが特徴である。緑区隣接の山側は農業が主産業だった地域のため、介護は家族が担うものという考えが根強い。市原市隣接の海側は、農業だけでなく漁業関連に従事していた高齢者も多い。また、鉄鋼関係への出稼ぎ労働者が高齢となって独居となることが増えていることに加え、浜野駅近隣では昭和40～50年代に開発された新興住宅地も多く、高齢化が深刻化している。マンション等の建設により人口は増加しているが自治会加入率は低下している。</p> <p>(地区課題) 内科・整形外科疾患等で入院できる病院がなく、医療機関の数も少ない。銀行や大型スーパーも浜野駅近隣にしかなく、バスの本数も減便されている状況では、車を運転しなくなった高齢者には日常生活を継続するための課題も多くなっている。民生委員や社協地区部会等の地域活動を担う人材の高齢化も進んでおり、民生委員不在の地区もある。コロナ禍により、高齢者の実態調査やいきいきサロンも2年以上休止されており、地域での見守り活動も縮小傾向である。町内自治会役員も高齢化しており、町内自治会活動の継続にも課題がある。最近では、徘徊高齢者の相談が増えている。</p>	
	活動方針 (総合)	<p>高齢者が周囲の支援を受けながらも、住み慣れた地域でできる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の深化に向け、生活支援コーディネーターや関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。また、地域共生社会の足がかりになるよう、高齢者以外の方にもセンターの周知活動を行い、地域活動にも積極的に参加していく。</p>	
浜野	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	<p>【小田急浜野団地自治会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を全戸配布したことで、ラジオ体操に参加している住民の積極的な活動参加が見られるようになったが、自主化までには至っていない。</li> </ul> <p>【浜野町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>あんしんケアセンターへの相談件数は一番多いが、地域の面積が広く、周知活動が行き渡らない。</li> <li>若い世代への周知活動が進んでいない。</li> <li>21町会による連合町内会となっており、町会ごとの地域診断が進んでいない。</li> </ul>
		活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に実施した自治会全戸アンケートの結果を活かして、住民活動を立ち上げることで、自治会活動の活発化へつなげる。</li> <li>相談件数は多いが、地域が広く大まかな地域課題の把握しかできていなかった。アンケートを実施し、地域課題を明確にする。</li> </ul>
		重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>あんしんケアセンターの周知活動（継続）</li> <li>住民主体の活動の立上げ支援（新規）</li> <li>浜野町全戸アンケート（新規）</li> </ul>

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（花見川区）

こてはし台	担当圏域 地区概況及び 地区課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>花見川区の最北端で八千代市、佐倉市、四街道市、稲毛区と隣接している。また、国道16号線を超えての地域（み春野・宇那谷町・内山町・大日町）については通いの場やインフォーマルな社会資源が少ない。</li> <li>み春野地域（平成12年に宇那谷町から区画整理）では、高齢化率が10%であり比較的若い世代が住んでいる。徒歩圏内での買い物はコンビニのみ。若い世帯は車で買い物や通院する事が多いが、今後、高齢化が進んでいくと、通院や買い物に支障をきたす方が増えると考えられる。対照的にこてはし台地域では、高齢化率50%前後であり、独居・高齢世帯が多く住んでおり千葉市内でも屈指の高齢化率エリア。ボランティア団体などの支援者も高齢化が進んでおり今後の支援体制に不安がある。</li> <li>8050問題、生活困窮者、身寄りがいない等複合的な問題を抱え他機関と連携しながら支援している事例が増えてきている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括ケアシステムの構築のために地域ケア会議を開催し、地域課題を把握し地域づくり・資源開発に向けて取り組みを行う。</li> <li>複合した課題を持つ世帯に対して、円滑に支援が行えるよう関係機関との連携強化を図る。</li> <li>社会資源が少ない地域に対しては、生活支援コーディネーターと連携し新たな社会資源の発掘や情報収集や集いの場等新たな活動の場を開拓する。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	<p>【横戸町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後も少子高齢化が進み、後期高齢者の増加が見込まれる。</li> <li>地域での見守り体制を強化し、早期の段階から地域と連携した支援を行える体制が必要である。</li> </ul>
		活動目的	自治会、民生委員、地区部会、地域住民等と連携を図り、早期対応・早期支援ができる体制づくり（見守り等）を構築する。
重点活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症サポーター養成講座の開催（新規）</li> <li>高齢者見守り訓練の開催（新規）</li> <li>地域ケア会議の開催（認知症高齢者等の地域課題）（新規）</li> </ul>	
花見川	担当圏域 地区概況及び 地区課題		<p>あんしんケアセンター所在地である花見川団地は昭和43年に建てられた大型団地であり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域でもトップの高齢化率（平均43.7%）である。相談件数も花見川団地で約半数以上を占めている。安否確認や成年後見制度につなげる相談が多くなっている。経済的な課題を抱え、身寄りがいない高齢・独居世帯、同居でも子に精神疾患・障害があるなど、複合的な課題を抱えている世帯が増加している。また、地域を支える支援団体、民生委員等も高齢化が進み、後任探しや欠員状況が続くなど苦慮している。花見川団地以外にも昭和40年代に建設されたマンション、集合住宅が点在しており、同様の課題を抱えている。地域資源に関しては商業施設が多く、交通機関も発達しており生活しやすい環境にある。</p> <p>一方、団地形成以前から住んでいる、戸建て住居の多い地域においては、団地に比べ、相談が少ない傾向にある。問題が潜在化している可能性もあり、あんしんケアセンターの更なる周知が必要である。また、地域資源に関しては商業施設が少なく交通手段も限られている。</p>
	活動方針 (総合)		圏域の民生委員、支援団体、地域住民の情報提供から介入に至るケースが増えてきている。今後も地域支援者との関係性を維持・発展させ早期対応を心掛けていく。相談や情報提供が少ない地域に関しては、あんしんケアセンターの周知不足も考えられるため定期的なアプローチから地域関係者とのネットワーク作りを推進していく。
	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	<p>【東急町内会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度にあんしんケアセンターの周知活動をしたが、相談件数の増加など目立った変化は見られていない。</li> <li>実際に行われている高齢者サロンや行事への参加ができていない。</li> </ul>
		活動目的	地域関係者とのネットワークを維持、発展させながらあんしんの周知活動を行い、支援が必要な方への早期対応につなげる。また、敬老会や地域活動に参加し、介護予防に対する認識を高める。
重点活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域支援者との関係性を維持していく（継続）</li> <li>出張相談会の開催（新規）</li> <li>介護予防に関するミニ講座や講演会の開催（継続）</li> </ul>	

さつきが丘	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が圏域の半数近くを占めるさつきが丘地区では、大規模団地であるさつきが丘団地からの相談が増え続けている。特にURさつきが丘団地においては、近年、独居高齢者の認知症や精神疾患の他、金銭面や身元保証人がいない等でトラブルになるケースが度々あり、URさつきが丘団地管理事務所からの相談も増えている。また、分譲・賃貸問わずに独居高齢者が多いため、訪問時に孤独死に至っていた事例もあった。</li> <li>・犢橋地区（犢橋町・三角町・千種町）においては、交通不便地域であり、遠方への外出時にはタクシーで移動する高齢者が多い。また、住宅の点在化により、高齢者の孤立が目立つ。また、犢橋地区にて最も相談が多い千種町においては、8050問題を中心に相談内容が複雑化することが増えている。</li> <li>・宮野木台4丁目においては、外出時に坂道が多く、転倒するリスクがある。また、転倒や外出による疲労を避けるために閉じこもりになる高齢者がいる。</li> </ul>
さつきが丘	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談が複雑化しているケースについては、必要時に行政機関と連携し、課題解決を図る。また、孤独死問題については、引き続き民生委員や町内自治会と連携し、安否確認体制を強化する。特に町内自治会とは、顔の見える関係が必要であるため、会合への出席頻度を増やす。</li> <li>・犢橋地区の交通問題と住宅の点在化問題については、前年度に課題解決できた事項もあるため、時間を費やししながら課題解決に向けて、役割の一旦を担う。</li> <li>・外出環境問題については、地域の諸団体の意向も踏まえつつ、地域ケア会議を開催し、検討していく。</li> </ul>
重点活動対象地区	対象地区 および課題	<p>【宮野木台4丁目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談数が少なく、地域の特性も含めて実態把握が困難であるところが多い。</li> <li>・坂道が多く、外出時の転倒や閉じこもり等が懸念される。</li> </ul>
重点活動対象地区	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が少ない原因は、センターの認知度が低いためであると思われるため、地域の諸団体と連携してセンターの周知活動を行う。</li> <li>・外出環境を調査することで、外出時の転倒や閉じこもり等の課題を明確にし、課題解決に向けた支援を行う。</li> </ul>
重点活動対象地区	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者全戸ニーズ調査、地域特性調査（拡充）</li> <li>・地域課題の解決に向けた地域ケア会議（新規）</li> </ul>
にれの木台	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の高齢化率は35.4%、介護保険認定者率は14.42%。</li> <li>・UR「にれの木台団地」や「西小中台団地」はEVなしの大規模な団地。どちらの団地も建設当初からの入居者が多く住み、独居や高齢者世帯が増えている。高齢化率40%を越えており、介護予防の普及啓発活動や認知症予防についての活動、集いの場の周知活動や新規開拓などの必要性を感じている。</li> <li>・朝日ヶ丘1丁目～3丁目、5丁目は事務所から比較的近く、相談件数も多い。民生委員からの情報も多い地区。</li> <li>・宮野木台1丁目は高台の戸建てと低層のマンションやアパートが混在している地域。</li> <li>・圏域の約半分の面積を有する畑地区は古くからの集落に加え新興住宅も増加している。広範囲に農地が広がり人口密度も低い地域。徒歩圏内にスーパーや商業施設がなく、バスを利用するには坂道や細い路地を通して大きな街道にでなければならない。足腰が弱ることで外出意欲が低下する可能性がある。高齢化率は30.2%とそれほど高くないが介護保険認定者が多く要介護認定の割合が19.4%と高くなっている。</li> </ul>
にれの木台	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンターの周知活動の継続。</li> <li>・高齢者が支援を受けながらも住み慣れた地域でその人らしい生活ができるよう医療、介護、福祉の連携を図る</li> <li>・センターだけでは解決困難な課題に対しては、行政機関や関連機関と連携を図り対応していく。</li> </ul>
重点活動対象地区	対象地区 および課題	<p>【畑町地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の総合相談内容の分析を進める必要がある。</li> <li>・あんしんケアセンターの周知活動及び、介護予防普及啓発活動が不足している。</li> </ul>
重点活動対象地区	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を分析し、地域の高齢者が安心して生活ができるよう支援を行う。</li> <li>・元気なうちから積極的に介護予防に取り組むことができ、現在の生活が維持できるよう支援していく。</li> </ul>
重点活動対象地区	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談から地域の課題を分析実施。（新規）</li> <li>・あんしんケアセンターの出張相談の立ち上げ。（新規）</li> <li>・あんしんケアセンターの周知活動、出前講座の開催。（新規）</li> <li>・地区部会や自治会への参加を行い関係機関と更なる関係性の強化。（継続）</li> </ul>

花園	担当圏域 地区概況及び 地区課題	JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、40年以上前に建てられた住宅が多い。独居や高齢者世帯も多く、地域によっては住民同士の関係性が希薄である。高齢化率も上がっているため、認知症への理解や、高齢者サービス等の周知活動が必要である。また、地域活動の場所が駅周辺に集中しており、交通の便が良い一方で、坂が多く道幅が狭い箇所もあり移動手段が限られ、参加しにくい場合もある。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が安心して地域に住み続けられるように、地域組織や関係機関との連携を大事にしていく。</li> <li>・住民組織やサロン、地域住民の方と話す機会を継続的に持ち、それぞれの問題点や意向を確認しながら活動していく。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で対面が難しい状況もあるため、対面以外での連絡方法を活用していく。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【南花園1丁目、南花園2丁目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り体制の強化が必要である。</li> <li>・民生委員が介入してしていない地域の状況を把握する。</li> <li>・地域住民の生活状況を把握する。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困りごとのある高齢者が、必要な時に相談できる体制を整えていく。[継続]</li> <li>・地域住民の見守りに対する意識を高め、あんしんケアセンターへ気軽に相談できるようにする。[拡充]</li> </ul>
幕張	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>幕張町から武石町にかけて急速に戸建て住宅が整備され、子育て世代の方々の転入がみられる。また、古家跡地に単身者用集合住宅が多数建築され、若い単身者の転出入が目立つ。両親の呼び寄せ介護の相談も増加しているが、転入者のあんしんケアセンター認知度は極めて低いと推測される。JR幕張駅北口側の区画整理により駅前スーパーやコンビニが閉店し、日常的な買い物に難儀している高齢者が増えた。</p> <p>1970年代の海岸時に整備されたマンション群は、入居者の多くが後期高齢者になっており、親族や近隣住民と疎遠な方々も多い。</p> <p>令和2年から続くコロナ禍において、活動の縮小や受診控えなどによる健康被害もみられる。訪問診療の医療機関が増えてきているが、経済的理由から依頼につながらない場合もある。また、他者交流や支援介入を望まないまま、事態が悪化・困窮して発見につながることもある。</p>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や民児協、自治会、社協地区部会、自主活動組織等と連携し、高齢者が安心して暮らし続けられる環境整備を目指す。</li> <li>・地域住民間の顔なじみを増やし、変化への気づきや一声かけられる関係づくりの構築を推進する。</li> <li>・相談対象者の意思を繰り返し確認しながら情報提供や理解援助を行い、意思決定支援を意識して対応する。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【幕張町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンターの相談窓口機能が、周知できていない。</li> </ul>
	重点活動	<p>10人前後の顔なじみ仲間を増やすとともに、相談窓口の周知を図り、気づいた方が遠慮せず相談・連絡できるようにする。</p> <p>顔なじみを増やし、変化への気づきや一声かけられる関係づくりを構築する。(新規)</p>

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（稲毛区）

山 王	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>山王町、小深町、六方町は四街道市に隣接した地域で、戸建てが多い。稲毛駅、四街道駅にもバスがでているため交通の便は良い。長沼町、長沼原町はスーパーや商業施設が点在している。長沼町は利便性は高いが、高齢化が進んでおり、長沼原町は農地や工場が多く、利便性の悪い地域もある。宮野木町は高齢化率は低い、75歳以上の高齢者が多い。坂が多いため、移動・買い物などが難しくなる方も多い。柏台、小中台町は集合住宅が多く、うち小中台町は高齢化率が低い。柏台は高齢化率が高いが、地域コミュニティが機能している。</p> <p>戸建住宅、集合住宅においても地域コミュニティが機能している地域は多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。自治会のない集合住宅、新型コロナウイルスの影響による地域活動や民生委員の訪問調査の中止など、要支援者の把握が難しい地域が増えている。</p>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。ICTの活用などにより、地域活動を継続し、つながりが保持できるようにしていく。</li> <li>・地域活動や会議への積極的な参加や民生委員などとの連携により、要支援者の把握に努めていく。</li> <li>・宮野木出張所においても自治会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指していく。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【圏域全体】</p> <p>新型コロナウイルスの影響による活動量の減少など、一層の介護予防普及啓発が必要。ICTの活用により活動継続が見込めるが、オンラインでの参加が難しい方も相当数いることが把握できた。多くの方が参加しやすい環境をどのように整えて開催するかが課題。</p>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域における介護予防の普及・啓発</li> <li>・自主グループとの連携</li> </ul>
重点活動	<p>介護予防イベントの開催（新規）</p>	
園 生	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>イベントや会議などの町内会活動が制限されており、住民同士で交流する機会が減少した。そのため、孤立化や外出減少によるフレイルが心配される。また、認知症と思われる相談業務も増えており認知症の方本人や家族への支援も必要。圏域内団地（あやめ台団地）の高齢化率は高く、それ以外の地域でも昭和40年代頃から建築されたマンションが多く立ち並ぶところでは、住民の高齢化が進み、老々介護世帯も多くなっている。</p> <p>本人や家族が精神的な障害を抱えているケースも多く、65歳未満の方が第一窓口として相談することも多くなってきている。</p>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも社会参加や交流ができるような環境や資源を生活支援コーディネーターとともに育成していく。</li> <li>・高齢者のみならず、どのような相談にも対応できるスキルを職員全員が身につけ、第一窓口として相談者を受け止める。</li> <li>・ICT等のオンライン形式を確立できるようにする。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【圏域全体】</p> <p>コロナ禍での、「地域住民の交流促進」や「居場所・行く場所の確保」が課題となる。</p> <p>【あやめ台団地】</p> <p>コロナ禍の長期化により介護予防活動に大きく制限がある。</p> <p>【園生町】</p> <p>自治会も積極的に支え合い活動として声掛けなどに取り組んでいるが、支援が必要な世帯は表からは分かりにくいことが多い。自治会の支え合い活動の担い手は高齢者が多く、地域の更なる協力が必要である。</p>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に関する情報発信を積極的に行い、あんしん園生での活動をアピールする。</li> <li>・訓練などを通し地域のコミュニケーションを図る。</li> <li>・安心して暮らせる地域作り、情報共有の場を作る。</li> </ul>
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍での「地域住民の交流」や「居場所・行く場所の確保」</li> <li>・体操教室、認知症カフェ等の場を用いた介護予防・セルフケア周知・説明会（拡充）</li> <li>・認知症徘徊模擬訓練の継続開催（継続）</li> </ul>	

天 台	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千草台地域は高齢化率が高く、身元保証人不要のU R 賃貸のため、独居高齢者が多く、孤独死の割合が高い。独居高齢者が亡くなり空いた部屋に若年層で精神疾患を抱える人が入居する事例も多く、隣近所とのトラブルとなっている。</li> <li>・萩台町は8050問題や高齢者虐待のケースが比較的多く、問題が深刻化しても家族の問題としてなかなか表に出てこない等の課題がある。</li> <li>・天台地区ではペット（特に猫）の多頭飼いや不衛生な環境による問題、独居高齢者が施設入所をした後にペットの引き取り手が見つからない等の新たな問題が増えてきている。</li> <li>・作草部町は自治会の見守り活動が行われており、地域の問題を地域で解決していく仕組み作りが出来ている。新しく出来たマンションが自治会に加入しておらず、災害時の見守りや支援について、自治会の防災対応の中に組み込むことが出来ないなど、地域課題となっている。県営住宅は複合的な問題を持つ世帯が多く、高齢化により生活が立ちいかなくなる。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合的な問題に対応するため、高齢者支援の窓口だけでなく様々な相談機関と連携を取りながら地域課題の解決に向かって支援を行っていく。</li> <li>・令和3年度に引き続き精神保健福祉課の「千葉市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」イベントに参加し、精神疾患を抱える人を地域で受け入れていく体制作りを行っていく。</li> <li>・ICTを用いて感染症が拡大しても地域活動を継続できる仕組み作りを地域の様々な団体と考えていく。</li> </ul>
	対象地区 および課題	<p>【千草台中学校地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が多く会議やイベント等の開催には、感染予防対策の徹底が必要だが、自治会では通信設備が整っていないところが多く自治会単位のオンライン開催が難しい。</li> </ul> <p>【千草台団地】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で暮らす障害を抱える方が増えてきているが、対応する窓口が少なく、地域の理解も進み難いという課題がある。</li> </ul> <p>【作草部町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者本人の、「もしもの時」に対する理解が進まない。</li> <li>・近隣住民が把握していたとしても、どこに相談していいかわからない。</li> <li>・民生委員だけを介して地域とつながっている。民生委員の孤立化・負担増の問題。</li> </ul> <p>【天台5丁目、6丁目 新栄会、親和会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画はあるが、実際の災害を想定した机上訓練が進まない。</li> <li>・地域のコミュニケーションが少なく、地域の課題解決に向けた、地域住民の協力、互助の活動が進みにくい。その為、災害時の自主防災組織の役割の周知が不十分、住民参加が少なく、計画通りの活動もできにくい。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や関係機関等からの望まない孤立を防ぐ。</li> <li>・将来的な衰えが及ぼす影響について予備知識を学んでもらう。</li> <li>・精神疾患について学び、精神疾患のある方と共に暮らしていく地域共生社会について考える。</li> <li>・見守り体制を広げ、安心して生活できる地域づくり</li> <li>・誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるような環境を、地域住民とともにめざしていく。</li> </ul>
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害の特性や支援機関についての勉強会開催（新規）</li> <li>・当事者の声を聴き、地域共生社会について考える（拡充）</li> <li>・地域ケア会議にて、事例を交えて支援方法を学ぶ（継続）</li> <li>・見守りポイントやエンディングサポート等の勉強会（新規）</li> <li>・健康測定会にて見守りポイントの講話実施（拡充）</li> <li>・民生委員や自治会長等の、地域住民との意見交換会（継続）</li> <li>・災害時の地域住民による高齢者支援活動の有効性向上</li> <li>・孤立化世帯調査（継続）</li> <li>・おひとりさまの生活設計（新規）</li> </ul>	

小 仲 台	担当圏域 地区概況及び 地区課題	地区によって町会・自治会の自治意識に差が生じている。自治意識が高い地域(小仲台、穴川)はコロナ禍においても高齢者同士の助け合いを目的としたサークル活動や見守り活動の継続など、自助だけではなく互助への和が広がっている。一方、組織の自治意識が比較的低い地域(轟町、弥生町)は、自助、互助への意識が低く、公助、共助を利用し、生活再建を目指す傾向にある。そのため、地域の問題を住民主体で解決することが難しい。
	活動方針 (総合)	コロナ禍において、可能な範囲での活動(住民主体で集合したサロンや体操教室、あんしんケアセンター主催の講座の開催等)を継続する。ICTの利用、人数制限、開催場所の選択など感染対策を講じながら、その実情に合わせた開催形式で、今後も介護予防を含め、個人の課題から地域で取り組む具体的課題へ変換できるように働きかけていく。
	重点活動 対象地区 および課題	【轟町】 ・高齢期に伴う課題(健康増進や介護予防など)について自身の問題として理解が進み難い。 ・地域課題を地域住民で共有し、解決に向けた話し合いの場がない。 ・自主的にリーダーになる人が少なく、主体的活動運営がきびしい。 【弥生町】 ・地域活動に従事する主要メンバーの高齢化と後継者の不在 ・地域課題を地域住民で共有し、解決に向けた話し合いの場がない ・地区部会が解散したことで高齢者の集う場所がない
	活動目的	地域住民の個々人に対し、健康づくり、介護予防への意識付けを図る。
	重点活動	・自治会、担当民生委員と共に地域課題を共有(継続) ・高齢者の集いの場として利用可能な資源の発掘(継続) ・地域課題検討に向けた地域ケア会議の実施(継続) ・体操教室の立ち上げ、運営について後方支援(新規)
稲 毛	担当圏域 地区概況及び 地区課題	圏域における高齢化率は20.7%と若い世代も多く住む地域である。公共交通機関の利便性が良く、新しく大型マンションが建設され若い世代の転入は増加している。また利便性を求め、高齢者のマンションへの転入も多く、世代格差や、地域のつながりが築きにくい傾向がある。新天地での環境で交流が深められず孤立化したり、同居世代でも子世代が就労により日中独居となり、他者との交流がないまま孤立した時間を過ごし、不活動になる事例も見受けられる。旧来の居住者に関しては近隣者と繋がりがあっても、互いの身体面の低下や配偶者の他界により孤立化しているため、引き続き積極的な地域活動に取り組む必要がある。
	活動方針 (総合)	地域資源を有効活用し全世代が暮らしやすい地域を創り出す。 関係機関と連携し、地域住民のニーズ把握から地域課題を発掘する。専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。また地域課題を発掘するために地域ケア会議を実施しネットワークを構築する。高齢者に必要な情報を講座や情報誌等で発信し、幅広く啓発ができるよう進めていく。 個別訪問を繰り返し、高齢者との信頼関係を構築しながら、自立支援に向けた支援を実施していく。
	重点活動 対象地区 および課題	【稲毛地区】 ・センターの周知活動・介護保険の理解・認知症対策をさらに推進していく必要がある。 【緑・黒砂地区】 ・地区の垣根を超え、ニーズに適した誰もが気軽に参加できる集いの場を住民とともに作り上げられるような取り組みが必要である。
	活動目的	・定期的に地域ケア会議を開催してきたことで、地域の実態が見え始めている。これからは関係機関との連携を図りながら、お互いの目標を定めて住民主体の活動の推進に力を入れていく。 ・あんしんケアセンターの周知活動 ・認知症の理解とネットワークづくり
	重点活動	・新たな地域で地域課題検討に向けた地域ケア会議やイベントの実施(新規) ・稲毛公民館での介護予防教室を新たな内容で開催(新規) ・地域課題検討に向けた地域ケア会議やイベントの実施(拡充) ・いきいき活動手帳の交付と活用(拡充) ・いきいきプラザと共同で徘徊模擬訓練の実施(新規) ・公民館での介護予防の普及啓発(継続) ・活動団体ごとの介護予防活動の普及啓発(継続) ・中央介護専門学校との連携を図り、定期的に介護予防教室を開催(新規) ・自治会・民生委員、活動関係者と地域ケア会議を定期的に開催し、「集いの場づくり」や「高齢者のニーズ」について課題検討する(拡充)

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（若葉区）

みつわ台	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の長期化により、高齢者、民生委員の方の地域活動も慎重になり、これまでの繋がりが希薄になりかねない。</li> <li>・自治会の数が多く、地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障を来している。</li> <li>・支え合い活動が充実している地域とそうでない地域の差異がある。</li> <li>・地域福祉を推進して行く次世代の担い手が不足している。</li> <li>・医療、福祉、教育等の各分野間の連携が十分ではない。</li> <li>・エレベーターの無い団地の高齢化が進み、買物等の生活支援を要する世帯が増えている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員、生活支援コーディネーターと連携を図りながら、NPO、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。(今般の感染状況の長期化が生活にどのような影響を及ぼしているのかも加味していく。)</li> <li>・感染症予防を徹底し、地域ケア会議等で、地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の抽出、実行性のある目標立てをする。</li> <li>・原町等の高齢化率の低い地域との関係性を構築していく。民生委員や地域住民等と協議も場を持ち、課題の把握を行っていく。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【原町町内会(若葉の杜自治会)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の長期化により、本来、何かしらの支援を要するが相談に繋がっていない方の掘り起こしをしていく必要がある。若い世代が地域に対してどのようなイメージを持っているのか把握していく必要がある。</li> </ul>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多岐に渡る生活課題を、地域住民と共に考え地域課題を抽出、解決機能を果たす事が出来る。</li> <li>・継続性をもった支援体制を世代間で構築出来る様な関りをしていく。</li> </ul>
都賀	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域の中で、若松台・都賀・西都賀の高齢化率は微増。若松町北部と都賀の台は若い世代の入居が増えているが、高齢化率は微減に留まっている。都賀駅周辺は介護保険事業所が多く、コミュニティーセンターやいきいきセンター等の地域活動を含めると住民の選択肢はあるが、シニアリーダー体操やいきいき体操等も含め、体操教室が多い反面、サロン等の憩いの場は少ない。地域住民による支え合いやボランティア活動はコロナ禍でも継続しているが、活動の拠点となる自治会館等の利用制限から停滞気味である。そのような状況でも新しく始まった地域食堂や参加人数が増加している体操教室もあり、地域にもよるが住民の意識は高い。</li> <li>・昨年度の当センターへの相談は、前年度と比べて新規の相談が増加している。介護保険に関する相談が最多で相談全体の約55%、施設入所や経済的な問題、認知症に関する相談が微増となっている。新型コロナの影響から、引きこもりによる認知機能の低下や経済的な問題が増加しているものと思われる。また相談内容も複雑化してきており、8050問題や老々介護、障害のある独身の子供と親の同居等、介護保険制度だけでは対応しきれず、他機関との連携が必要な相談が多くなってきている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で活動が休止していた地域活動の拠点を訪問し、活動の再開に向けた支援を行う。</li> <li>・介護や医療につなげるだけでは解決できない課題を抱えるケースをはじめ、さまざまなケースについて地域関係者、多職種、多機関との連携を積極的に図り、ネットワークの構築と連携に努める。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【若松町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室やサロンにおいては、感染対策の観点から参加人数を制限せざるを得ない。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響もあり、どの程度参加の意思のある住民がいるか不明である。</li> </ul>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室において、興味を持ったテーマの回のみでの参加も可能とすることで参加を促し、地域住民の閉じこもり防止と心身機能の低下を予防する。</li> <li>・コロナ禍の中でも地域住民同士の繋がりを持つ事ができる。</li> <li>・日常生活の中でフレイル予防を継続して行く為のきっかけ作り。</li> </ul>
	重点活動	介護予防教室の立ち上げ・活動支援。

桜木	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世帯、独居世帯が増えている中、地域活動に関する理解や意識に、個人差や地域差がある。関連機関との連携や相談等で迅速で丁寧な対応が必要である。</li> <li>・個別ケース相談では、認知症、精神疾患、身寄りのない高齢者、金銭問題、複雑な家族関係、虐待等も絡む複合的な内容もあり長期的に関わるケースが増えている。関係機関や地域との連携強化を図り、細やかな対応が必要である。</li> <li>・地域活動の支援者が高齢となり、次に引継ぎたくても担い手不足となっている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の状況に応じた、迅速で丁寧な対応を行い、あんしんケアセンター桜木としての活動を展開する。</li> <li>・地区の特性や実情、抱える課題を関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムを推進する。</li> <li>・研修会参加、事例検討会等で職員の援助技術の向上を図り、個々の総合相談を通じて地域住民や関係機関との連携強化を図る。</li> <li>・自然災害や感染症、不審者対応等不測の事態が発生しても、適切な運営ができるよう関係機関との連絡、連携体制を整えておく。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【貝塚町、貝塚、加曽利町、桜木、桜木北】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者が多く、孤独死事例が続いたことから、地域からの不安の声や安否確認依頼が多い。</li> <li>・高齢者緊急通報システム等、独居高齢者のためのサービスについて、周知や利用が進んでいない。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の定例会に参加し、連携を深め、タイムリーな相談対応に努める。【継続】</li> <li>・高齢者緊急通報システム等、独居高齢者のためのサービスについて周知活動を行う。【新規】</li> </ul> <p>・孤独死予防のための体制づくり</p>

千城台	担当圏域 地区概況及び 地区課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域は、モノレール沿線や御成街道沿いの地域は人口密度が高く、圏域総人口の9割が居住している地域と、郊外の更科地区は田畑が多く農業が盛んだが人口密度が低く、高齢化や人口減少が進んでいる地域に分類される。</li> <li>・圏域総人口、高齢者人口ともにここ数年は減少傾向だが、モノレール「千城台北駅」「小倉台駅」周辺は住宅が整備され人口流入が進み、平成15年度と平成30年度の比較で夫々、年間約7万人、約11万人の駅利用者が増加した。</li> <li>・モノレール「千城台駅」は上記期間の比較で、年間利用者が約18万人減少、通勤通学でモノレールを利用する世代が激減、令和2年以降に小学校5校が3校に再編される等、少子高齢化が顕著となっている。</li> <li>・地域課題は、①圏域内に市営住宅1,683戸、県営住宅1,837戸が存在、経済面を含めた課題が複合化していること、②令和2年9月の圏域介護保険認定率が20,2%と同年の千葉市認定率の17,3%より高く、介護予防活動の普及啓発や実践が必要なこと、③75歳以上の単身高齢者割合が19,2%と高く、コロナ禍で外出機会や交流機会の減少により、社会的孤立や認知症、うつ等のリスクが高くなっており、感染防止に配慮した継続的な地域活動が必要なこと。</li> </ul>
	活動方針 (総合)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化、複合化する総合相談に対応するために、包括3職種が中心となり関係機関と連携を図りながら適切な支援を行い、個別課題の解決を図りつつ、地域包括ケアシステムのさらなる深化を図る。</li> <li>・コロナ禍における地域活動の縮小、フレイルといった現状に対し、地域住民が介護予防や健康づくりに関心を持つことで、積極的な自立支援、重度化防止を促す取り組みを行う。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	<p>【千葉市社会福祉協議会 御成台、千城台西北地区部会】</p> <p>コロナ禍による感染防止で地区部会の活動が休止、再開を繰り返したことで「いきいきサロン」、「シニアリーダー体操教室」の利用者が減少、「いきいきサロン」は一時期において運営側の人数がサロン参加者を上回ることもあった。サロンの充実や広報活動、また、運営側のモチベーション維持のために新たな利用者を集めることが課題となっている。</p>
		活動目的	「サロン水曜会」「サロン金曜会」での介護予防体操や脳トレ、フレイル予防講話等の実施、「シニアリーダー体操教室」で健康相談を行うことでそれぞれの企画充実や健康維持に必要な情報を提供し参加者の健康増進を図る。
重点活動		地区部会運営の「サロン水曜会」「サロン金曜会」訪問による活動支援や教養講座開催でのサロン充実や地域への情報発信。地区部会と千城台高校、当センターの連携による新たな企画開発の検討。(拡充)	
大宮台	担当圏域 地区概況及び 地区課題		<p>【地区概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若葉区でも面積の広い圏域であり、農業が盛んで集落が点在している。</li> <li>・高齢化率46%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方も増えている。</li> <li>・圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くない。</li> </ul> <p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。複合的な問題を抱えたケースの相談が増えている。</li> <li>・買い物や通院、集いの場に出かける際に利用できる移動手段の確保が困難である。</li> </ul>
	活動方針 (総合)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。</li> <li>・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療・介護に関する情報収集や相談支援を行い、医療機関や介護サービス事業者等の高齢者に関わる様々な資源が協働できる体制づくりに取り組む。</li> <li>・コロナ禍においてもICT等を活用することで、他機関と連携し、会議等を開催する。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	対象地区 および課題	<p>【千葉市社会福祉協議会 白井地区部会】</p> <p>これまで行った認知症サポーター養成講座は、地区部会の役員や民生委員が主な対象だった。開催回数も少なく、多くの地域住民に認知症への理解を広めるには至っていない。</p>
		活動目的	認知症になっても暮らし続けられる地域を目指し、まずは地域住民の認知症への理解を深め、認知症予防への意識を高める。
	重点活動	白井地区の住民に対する『認知症サポーター養成講座』の推進	

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（緑区）

鎌 取	担当圏域 地区概況及び 地区課題	当圏域の高齢化率は市内で最も低い（17.2%）ものの、高齢者人口の増加率は最も高くなっている。40代から50代の層が多いことから、今後は急速に高齢化が進んでいく。また、交通アクセスの良さ等から今後も人口の増加が見込まれている。圏域内には連帯意識の希薄化が散見される地域がある一方、従来の地縁関係が残り、住民同士の結びつきが強い地域も数多くある。人口構成や連帯意識など地域特性は様々である。こうした中で地域包括ケアシステムの構築を目指していくためには、地域特性を踏まえた介護予防や生活支援に関する受け皿、個々の生活状況に応じた住民主体の通いの場を創設していく必要がある。住民同士の結びつきを強めながら高齢者が安心して生活ができる体制の構築を推進していく。
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や自治会、生活支援コーディネーターなどの連携や多職種協働による地域ケア会議を開催し、地域課題の把握に努める。</li> <li>・住民同士の繋がりによる通いの場の創設を推進し、地域包括ケアシステムの構築を目指す。</li> <li>・コロナ禍や自然災害の際にも必要な支援をスムーズに提供するため、ICTの活用に努める。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【圏域内全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急速に高齢化が進むことでサービスの担い手不足が予測される。</li> <li>・重篤な問題や複合的な課題を抱えていても、本人や家族に自覚がなく、支援を必要としないことから、解決に至らないケースが増加している。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進行を見据え、地域の担い手の育成や社会資源の開発及び活用を目指す。</li> <li>・地域課題解決に向けた地域ケア会議を開催し課題についての早期解決を図るとともに政策提言を行う。また、それらの機会を通じて専門職や関係機関との連携強化を図る。</li> <li>・コロナ禍や自然災害時にも、必要な機関と連携が図れるようICTの活用やBCP作成に取り組む。</li> </ul>
誉 田	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内（4町）の高齢化率は約26%と、ここ数年で大きな変化はない。特に平川町は高齢化率が40%を超え、後期高齢者は20%を超えている。面積は広いが交通手段がない地区である。誉田町3丁目も32%と高く、同様に後期高齢者は20%を超えている。町内の多くが急な坂道になっている。2町とも高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるには厳しい環境にある。</li> <li>・圏域を東西に走るJRとそれと並行している幹線道路を運行しているバス以外に交通手段はない。生活に必要なスーパー、銀行や郵便局なども、この幹線道路沿いにある。少しでも離れた地域に住んでいる高齢者は、自力で出てくるのができなくなっている。さらに幹線道路の歩道は狭く平坦ではないため、歩行器を使っても歩きにくい。ましてシニアカーは走れず、車道を利用するしかなく危険が大きいことから、利用を勧めることができにくい。その結果、ますます自力で移動する手段がなくなっている。</li> <li>・昨年来、訪問看護ステーションの開設が続いている。住民と医療機関との橋渡し役の強化が期待できる。</li> <li>・コロナ禍の長期化により、虐待や生活困窮を含む多問題の相談が増えている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層生活支援コーディネーターと協働し以下のことを行う。</li> <li>⇒多少不便でも住み慣れた地域で生活するために必要な筋力や体力を維持できるように、運動 教室などを立ち上げていく。</li> <li>⇒インフォーマルサポートグループの立ち上げや拡充を支援し、生活の不便さを補える環境づくりに取り組む。また高齢者自身にも地域での役割を持ってもらい、自分のこととして共に活動に参加してもらう。</li> <li>⇒様々な角度から地域診断を行う。</li> <li>・医療関係者や介護保険関係者との連携を深め、地域ケア会議やネットワーク会議で課題解決の糸口を見出していく。</li> </ul>
	重点活動 対象地区	<p>【誉田2丁目団地】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団地内の関係が希薄なままだと、災害時などに要援護者が孤立したり、助け合うことができず、状況が悪化してしまうことが懸念される。</li> <li>・ますますフレイル状態が進むと自立度が低下し、必要以上に介護保険などのサービスに頼らざるを得なくなることが懸念される。</li> <li>・住民が自らのパワーを発揮して、活動を起こすきっかけがない。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希薄な関係や不活発な状態を改善し、「住民同士で助け合う」「介護予防」という意識を育て、セルフケアに取り組む住民を育てていく。</li> <li>・「自分の目で見て買う物を選ぶ」楽しさを味わえ、生活への意欲が持てるようになり、自立度の低下を予防できる。経年の結果、フレイル予防になることが期待できる。さらに住民同士が言葉を交わす場を提供し、その後も関係が続き、災害時などの助け合いに繋がりたい。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康測定会開催（継続）</li> <li>・移動販売の実施（新規）</li> </ul>

土 気	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【地区概況】</p> <p>人口44,417人 高齢者人口13,330人 高齢化率30%（令和3年12月末時点）</p> <p>JR外房線を境に北部は旧農村地域で昔から居住する住民が多く、南部は30年程前に開発された新興住宅地と宅地開発され40年経過した戸建ての団地が混在する地域。</p> <p>【地区課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない新興住宅地と宅地開発され40～50年経過し、高齢化率が45%を超えている戸建て団地の地域が混在しており、圏域全体に高齢化が進行している。</li> <li>・高齢化率が高い地域は単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死の発生や老老介護の状況が多く見られる。</li> <li>・圏域全体において交通の便が悪く、通院や買い物、通いの場等への移動に困っている高齢者が多い。</li> <li>・高齢者と同居する家族が精神疾患や障害を抱えている等、8050問題や複合的な課題を抱える世帯の相談が増加している。</li> <li>・入院可能な医療機関が1か所しかなく、総合病院ではないため、遠方の医療機関へ入院しなければならない。</li> </ul>	
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率の高い地域では複合課題を抱える事例が多いため、障害福祉や児童福祉等の相談機関も含めた関係機関や地域の関係者との連携を強化し、家族全体を支援できるような支援体制づくりを行うとともに、地域課題解決に向けた検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、通いの場等地域の活動団体への支援を行っていく。</li> <li>・高齢化率が比較的低い地域では地域へ出向き、センター（出張所含む）の周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を積極的に行っていく。</li> </ul>	
	重点 活動 対象 地区	対象地区 および課題	<p>【高津戸町】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が40%を超え高齢化が進行している地域。交通の便が悪く、歩いて行ける場所に地域住民同士の交流や拠点となる場所がほとんどない。</li> <li>・コロナ禍で活動制限もあり、活動場所がなくなったり、高齢化に伴い、活動場所まで行けない高齢者もいる。</li> <li>・参加者からはカフェができたことで「歩いて行ける場所に集まれる所ができて嬉しい。昔一緒にサークル活動をしていた人と会えて嬉しい。」等の声が聞かれており地域ニーズがある。</li> </ul> <p>【圏域全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症高齢者を支える為に警察や金融機関との情報共有及び連携の強化</li> </ul>
		活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が気軽に集まれ、世代を問わず色々な世代の方が集まれる場（コミュニティカフェ）の開催を支援する。</li> <li>また、地域の拠点として介護予防への取り組みが住民主体で実施できる場を目指す。</li> <li>・認知症高齢者を地域で支えるために、関係機関との連携強化及び、高齢者を支援する上での課題の共有を図る。</li> </ul>
	重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティカフェ（お茶っこ）の運営継続支援（継続）</li> <li>・認知症高齢者を取り巻く、地域課題検討のための地域ケア会議（継続）</li> </ul>	

## 令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画（美浜区）

真砂	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居・高齢世帯からの相談が増加している。（令和3年度※1月末時点 世帯別相談割合 独居高齢者↓32.1% 高齢世帯↑37.2% 同居↓20.6% その他↑3.2% 不明↑6.9%）※矢印 令和2年度比</li> <li>・認知症・精神・知的障害など複数の問題を抱える世帯が増え、成年後見制度等、他制度への繋ぎが必要な方及び高齢者虐待の疑いも含めた対応の増加。（成年後見制度 令和2年度 新規20名延べ324回 ⇒ 令和3年度※1月末時点 新規20名延べ301回。／高齢者虐待 令和2年度 新規10名延べ101回 ⇒ 令和3年度※1月末時点 新規9名延べ対応件数111回）</li> <li>・障害の制度や法的な問題に対しての地域住民及び専門職や支援者のサポートが必要である。</li> <li>・近隣との交流・見守り体制が希薄、相談・支援先を知らないことで問題が潜在化、事態の重症化を招き易い。</li> <li>・エレベーターのない低中層住宅がおよそ80棟あり、居住する高齢者の閉じこもりや外出困難が問題となっている。</li> </ul>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題を住民へ伝え、介護予防及び地域の見守り意識を高める。住民の通報により、要支援高齢者が早期に発見され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合相談支援、権利擁護、介護予防ケアマネジメントなど適切な支援につなげる。</li> <li>・地域包括ケアシステムの推進に向けて、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、生活支援コーディネーターとの連携により、地域住民や関係機関・団体とのネットワーク構築を図る。複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。</li> <li>・介護予防、地域課題の普及啓発や会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う。</li> <li>・自然災害や感染症のまん延などの不測の事態においても、適切なセンター運営ができるようにBCP作成に取り組む。</li> </ul>
	重点活動 対象地区 および課題	<p>【真砂1丁目～5丁目】</p> <p>コロナ禍で対面での活動・取組みが困難であり、ズームなどのICTを活用した地域の課題や介護予防に関する普及啓発が効果的と思われたが、各家庭のICT環境に課題があり実際は難しいことが判明した。一方、自治会、育成委員会のネットワークの活用により、紙ベースでも情報を届けることが可能と思われる。また、既存のパンフレットの他、新しい情報を盛り込んだ情報提供も併せて必要である。</p>
	活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生活習慣・食生活の改善など介護予防について、子育て世代など高齢者以外の方にも普及啓発する。</li> <li>②自分の親や祖父母に支援が必要になりそうな時に、あんしんケアセンター等の相談窓口を子から親に教える。子自身が親の相談に行くことが出来る。</li> </ul>
重点活動	<p>高齢者及び子育て、現役世代への介護予防及びあんしんケアセンターの普及啓発【継続】</p>	
磯辺	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<p>【高浜・磯辺】一部を除き、低層マンションや戸建地区。ほぼ全域が住居専用地域のため、商店も少ない。戸建地区では高齢化が進み、町丁によっては50%近くになる。マンション地区では、エレベーターがない低層マンションが多く、外出や地域活動などでも困難を生じることが多い。</p> <p>【打瀬】オートロックの高層マンション群。ボランティアやサークルなどの社会参加の意識は比較的高いが、気軽な声かけや見守りがしにくいため、孤立化しやすい。</p> <p>【幕張西・浜田】地域住民が共有して使用できる場所が公民館のみ。そのため地域全体で連携をとりながら活動できる場所がなく、地域全体の結びつきが希薄である。自治会単位での活動になりがちで、活動の差が大きい。これは介護予防などにも大きな影響があるのではないかと推測する。</p> <p>【共通の特徴】圏域全体が埋立地で、地縁が薄い。</p>
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの維持、さらなる構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会や民間事業者との連携を深め共同して取り組む。</li> <li>・地域で、住民が主体的に介護予防となる活動に取り組めるように、関係機関と連携を図る。</li> </ul>
	重点活動 対象地区 および課題	<p>【高浜5丁目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有志による、住民主体の支えあい活動準備委員会が立ち上がったものの、組織づくりや、運営の方向性について明文化されていない。</li> <li>・住民主体の支えあい活動準備委員会のメンバーは活動の必要性を感じていると同時に、運営に関する個人個人の負担を危惧している。</li> </ul>
	活動目的	<p>地域住民が住民同士のつながりや共助を意識することにより、住民間のコミュニケーションの向上と住民の社会参加を促進する。</p>
重点活動	<p>住民主体の支え合い活動を立ち上げ、円滑な活動となるための支援</p>	

高 洲	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンが不在であったり、遠距離に在住していることで認知機能をはじめとする身体・精神症状の変化の発見が遅れ、生活や医療等に対する対応が困難となる事案が増えている。</li> <li>・集合住宅で占められている地域で他市、他県から移住してくる方が多く地域の資源が分からない、コミュニティをうまく活用出来ない等により「引きこもり」になっている方が多い。</li> <li>・サービス事業者、高齢者施設が少ないことで適切なサービスに結びつけていくことが遅くなる傾向がみられる。</li> <li>・圏域内のスーパーが2店舗閉鎖したことで、買い物に不自由する住民が増えることが予測される。相談や介護申請の希望が増えており、生活支援コーディネーターを中心とした関係機関と連携を図り、社会資源の発掘や情報整理に努めていく必要がある。</li> <li>・コロナ禍において通いの場が随時閉鎖しており、心身ともに予防活動が損なわれ、状態悪化における相談が増えている。</li> </ul>	
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防が必要とされる中、総合相談の支援、関係機関との連携、介護予防等安全かつ有効に実施する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携を図り、地域資源の調査に努め、情報を住民に提供する事で生活支援・介護予防の促進に努める。</li> <li>・相談来所者の増加や建物内外での掲示板が有効活用されていることから、引き続き地域の中核機関として積極的な普及啓発に努める。</li> </ul>	
	重点 活動 対象 地区	対象地区 および課題	<p>【圏域全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・潜在化している課題の早期把握が必要である。</li> <li>・地域の方や関係機関とのさらなるネットワークの強化が必要である。</li> </ul>
		活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議や多職種連携会議を効果的に活用することで、地域課題の把握に努める。</li> <li>・把握した課題や情報を地域と共有し、課題解決につなげる。</li> </ul>
重点活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員会議への出席（継続）</li> <li>・多職種連携会議の効果的な開催（充実）</li> <li>・困難ケースにおける問題の明確化と方向性の導き（継続）</li> </ul>	
幸 町	担当圏域 地区概況及び 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題がある。</li> <li>・地域により見守り機能や地域活動に差があり、問題が潜在化しやすい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域活動や社会生活での制限も影響し、生活不活発な状態が常態化し、地域や家族との関係が希薄になっている。</li> </ul>	
	活動方針 (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を図るとともに、独居及び高齢世帯の見守り体制を構築する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、潜在化し且つ深刻化しつつある引きこもり等の問題の早期発見、早期介入につなげる。</li> <li>・小さな声に寄り添いながら、ネットワークのより一層の強化を図り、更なる地域力の向上を支援する。</li> <li>・コミュニティの少ない地域の実情を把握し、相談支援体制の充実を図る。</li> </ul>	
	重点 活動 対象 地区	対象地区 および課題	<p>【幸町1丁目 県営住宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象地域の実情把握</li> <li>・潜在化している問題の抽出</li> <li>・民生委員や自治会等、関係機関との連携強化</li> </ul>
		活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんしんケアセンターの周知を図ることで、総合相談へつながる環境を整える。</li> <li>・潜在化している問題の早期発見と必要の介入。</li> </ul>
	重点活動	効果的な周知活動とコミュニティやネットワークの形成	